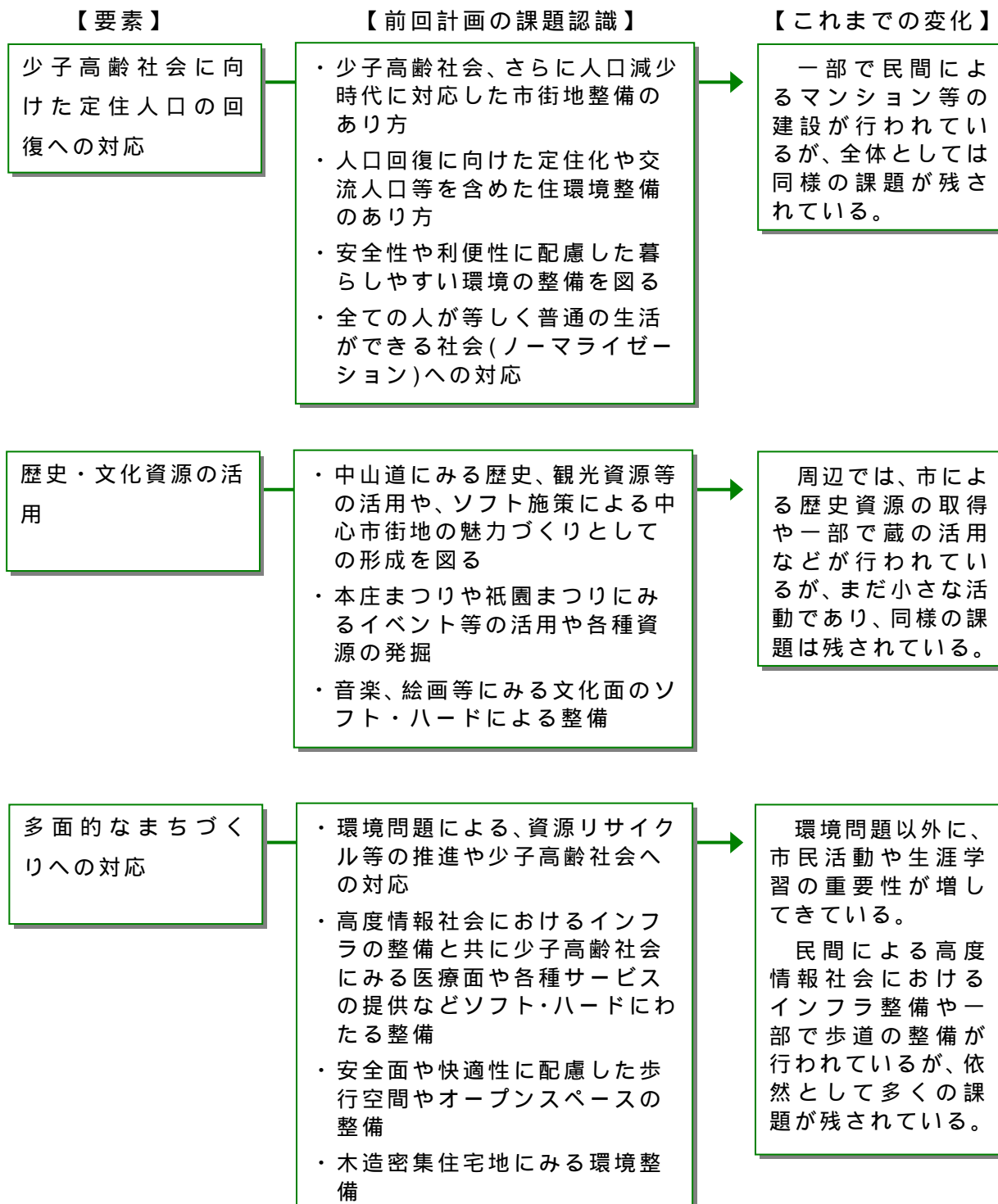


第2章 中心市街地活性化の課題と方向性

1. 中心市街地の課題

(1) 市街地の課題

前回計画策定時(平成12年)に整理した市街地の課題について、これまでの変化を整理しました。



【要素】

【前回計画の課題認識】

【これまでの変化】

中心市街地の活性化を支える交通環境の整備

- ・モータリゼーションに配慮した、アクセスと景観的な視点の必要性
- ・少子高齢化に向けたバリアフリー環境の創出
- ・商店街と一体となった安全で安心して買い物ができる歩行空間の整備

虫食いのな駐車場用地の増加により景観的には劣化している。

駅前通りの整備は完了しているが、その他の通りは未整備である。

また、新しい交通システムの検討が進められている。

住民が主体となって活動を支えていく自立性のある組織づくり

- ・中心市街地の活性化に向けた自立性のある組織づくり
- ・組織を牽引するリーダーの必要性
- ・商店街が自立するための組織化

TMO の設立には至らなかったが、近年、まちづくりに関連する市民活動団体が組織されるなど、新たな動きが始まっている。

(2) 商業の課題



2. 新たな視点からの課題

(1) まちづくりを支える住民の変化

団塊の世代の定年退職

昭和 21 年から昭和 24 年頃の第一次ベビーブームに生まれたいわゆる団塊の世代が、60 歳から 65 歳までの定年退職期を迎えています。

企業戦士として働いてきたこれらのシニア世代が、地域で過ごす時間が増えることで、企業で様々なスキルを身につけたこれらの世代が地域活動にどのように関わっていくのかは、大きな関心事となっています。

価値観の変化

これらの団塊の世代を境に、世相を反映して価値観が大きく変化してきたといわれています。

本市の人口構成のもう一つのピークを示す 35 歳から 40 歳までの世代は、昭和 50 年代から始まるロスプロセス といわれる世代です。

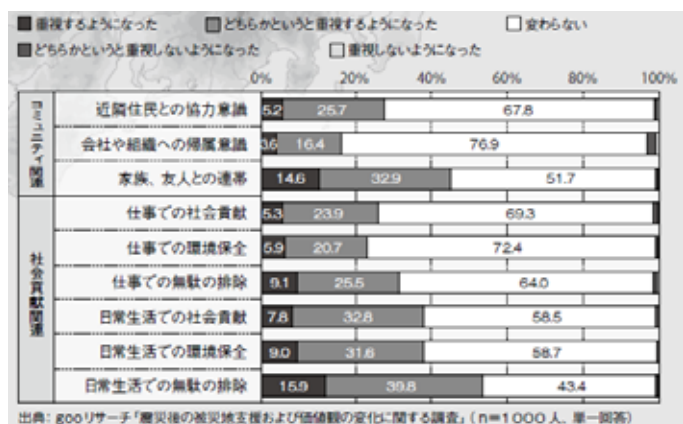
豊かさの面では成熟を極めた社会環境の中で生まれたこの世代は、物質的な欠乏感はほとんど持っていないといわれています。

また、価値観の点では「公」よりも「私」を重視し、社会の常識より自分の感覚を基準として行動する傾向を示し、いわゆる「いい大学、いい会社」=「いい人生」という従来の価値観はなくなってきました。

その一方で、生活の中心は、友人とのコミュニケーションであり、携帯やメールなどの普及とあいまって、「友達とのつながり」を重視する傾向が強まっています。

さらに、東日本大震災は、私達の価値観に変化を与えました。

右図にみられるように、家族や友人との連帯や、日常生活での社会貢献などを意識する人が増えています。



(2) まちづくりの視点の変化

市民活動や生涯学習の活性化

近年、まちづくりの大切な要素として、「コミュニティ形成」、「文化の醸成」などが見直されるようになってきました。

週末には自動車で気軽に地域外に出掛けられるようになった今、居住者が増えても、地域の活性化につながっていない事例は少なくありません。

地域の中で、地域にかかわる活動（行動）や自分の趣味や志向を広げるための活動（行動）をする人が増えてこそ、地域の活性化に結びつくものと考えます。

事業活動や生活行動だけではなく、いわゆる市民活動や生涯学習などの活動（行動）が、地域内で広く行われることがまちの活性化につながっていくと期待されます。

テーマコミュニティ

特定の地域問題の解決や前進に向け一定の分野に特化した活動を行ったり、趣味や志向など特定のテーマに関する情報交流や普及活動等を行ったりする「テーマコミュニティ」という考え方が広く認められるようになりました。

自治会などの既存の地域（地縁）のコミュニティ活動には参加せず、自分の関心の高いテーマについて、同様の趣味や志向を持った人たちと集まり、活動を展開する人が増え、NPO法人の取得などに至っていることもしばしば見られます。

近年では、市民が活動（行動）するコミュニティとして、

第1のコミュニティ = 家庭や地域

第2のコミュニティ = 職場や学校

第3のコミュニティ = テーマコミュニティ

といわれるようになり、テーマコミュニティも、まちの重要な構成要素として、考慮していくことが必要になっていると言えます。

(3) まちづくりを支える多様な力

まちづくりを支える住民や視点が変わっている中で、市民・地域主体の活動と行政との協働による本庄の魅力を高める総合力 = 『市民力』が、まちづくりの視点として重要な位置を占めるようになってきたと言えます。

この他、防災や持続可能なまちづくりなど、従来からあげられてきた視点についても、東日本大震災や各地で発生する深刻な災害などを受け、その重要性が増していると言えます。

(4)「市民力」に関する課題の整理

まちづくりの新しい視点として、「市民力」に注視し、市民力にかかわる課題の整理を行いました。

| | |
|--|---|
| <p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民プラザ跡地複合施設の整備 ・ マンション建設による住民の増加 ・ 市内には多くの高校があり、駅を乗降する若者（学生）が多い。 ・ 多彩なまちづくり活動を始めている市民がいる。 ・ 歴史ある蔵などが残されている。 | <p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな活用が進まず、閉まっている商店が増えた。 ・ 建物の老朽化がさらに進んでいる。 ・ 子育て支援施設や高齢者の交流支援施設、活動の場などが少ない。 ・ まちづくりに参加する市民がまだ少ない。 |
| <p>【活性化に有効な外部要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 団塊の世代の定年退職 ・ 富岡製糸工場跡と絹産業遺産群の世界遺産登録活動 ・ 地域活動や市民活動に関心を持つ人の増加 ・ 社会貢献、地域貢献に関心を持つ人の増加 | <p>【活性化に影響する外部要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本庄早稲田駅周辺に新しいまちづくりが進む。 ・ 高齢化率の上昇 ・ 放置された空き家・空き地の問題 |



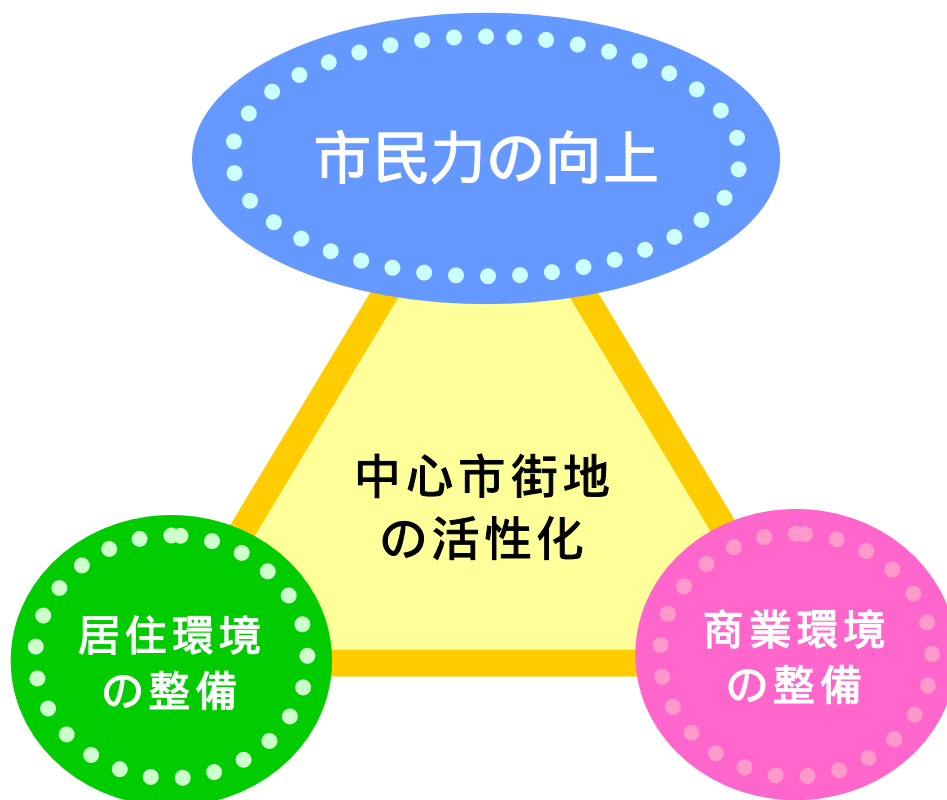
| | 強み | 弱み |
|--------------|---|---|
| 活性化に有効な外部要因 | <p>【外部要因を活かして強みを伸ばす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 団塊の世代や学生の力をまちづくりに活かしていく。 ・ 市民プラザ跡地複合施設を核拠点として市民活動を発展させる。 | <p>【外部要因を活かして弱みを克服】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な市民活動の拠点として空き店舗や蔵を活用していく。 ・ 子育て支援や高齢者のサロン活動などに空き店舗の活用などを図る。 |
| 活性化に影響する外部要因 | <p>【強みを活かして外部要因に負けない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民のまちづくりの取り組みを、地域活性化と連携させる。 | <p>【外部要因により弱みが広がらないように】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本庄早稲田駅周辺地域にない魅力に着目し、オリジナリティのあるまちづくりを進める。 |



「市民力」の視点からみた課題

| |
|---|
| <p>多様な市民活動とまちづくりを連携させていく。 まちづくりを牽引する人材の育成を図る。 まちづくりに参加する市民を増やす。 市民プラザ跡地複合施設や街道、蔵などの歴史資源など、中心市街地の特色を活かした市民活動の推進を図る。</p> |
|---|

3 . 中心市街地活性化の方向性



“まちに関心を持つ人”を増やすことから始める

本市においては、前回計画に基づき、定住促進に向けた居住環境の整備や、地域に根ざした魅力的な商業環境の整備に向けて取り組んできましたが、多くの課題は残され活性化は達成されていません。

その課題のひとつにTMOが設立できなかったことに伴う牽引役の不在があり、この課題を解決するために新たな視点である“市民力”を育てる必要があります。

近年、まちづくりの先進地域では地域住民による“危機意識や課題の共有”“目標への共感”が、まちづくりを進める大きな原動力になっています。

本市においても、まちづくりに取り組む“市民・地域主体の活動”は徐々に活性化してきており、まちづくりの新しい視点である“市民力”の向上を、中心市街地活性化のための取り組みに加え、“市民・地域主体の活動”とまちづくりを連携させていくことで、“まちに関心を持つ人”を増やし、居住環境と商業環境の整備への気運を高め、推進していくことを、今回の計画改定の方向性とします。